

① 自身の仕事

気象業界 人事職

② 自身の仕事の紹介

・気象業界とはどんな業界？

気象予測モデルを開発し予測技術を向上させ防災につなげるものの他、観測された気象データを解析し、他のビッグデータと掛け合わせることで天気予報にとどまらず、生活情報や需要予測といった社会・経済活動最適化のための仕組みを提供したり、自然災害や環境開発等、気象と社会・経済活動双方のリスクマネジメントを行う業界です。硬い表現になってしまいましたが、防災面を始めとして企業活動が社会に貢献していると身近に感じやすい業界です。また、気象データの活用方法は未知数であり、加えて気象と社会・経済、どちらも生き物のように日々変動する事象を対象にしていることからこそその探究と創造性に満ちた業界だと感じています。

・業種、仕事について

配属されたばかりなので、今後の話ですが、社内の労務管理や、規定の調整に携わる予定です。

③ 自身の業界へ興味がある在学生の皆さんへのアドバイス

私の過去を振り返ってみた結果ですが、興味の幅を広く持って、色んな考え方や物事を知り、純粋に良いな、面白いと思える自身の幅を広げていくことが大切なのかなと思います。

元々知りたいと思っていた科目、カリキュラムの都合上とらなければならなくなった科目、どちらであっても同等に耳を傾けてまずは聴いてほしいです。講義にはハードなものもありますが、何故こうなったのかを考え、思考を辿ってみる時間も大学ならではの大切なことだと思って大事にしてみてください。そうすると、気づいた時には自身の中に新たな視点が増えてたりしますし、現在、本当に興味のあることは何か見えてきたり、今後へのヒントになったりします。また、サークル活動や少人数クラスの講義等を通して普段一緒にいる友人とは異なるコミュニティで過ごすことも、自省すべき点や新たな観点を見つける良い刺激になり、少しでも幅を広げることにつながると思います。

大学生活は自由な分、その時々違った可能性が沢山ありますし、悩むことも沢山あります。私自身も法曹に興味があり法学特進プログラムで学び始めた 1 年次から紆余曲折を経てその頃は想像もしていなかった未来に今います。客観的には全く違う業界を進路として選んだようでも、上記のような 4 年間を過ごして進んだ自身の思いと相違ない進路ですし、気象や IT 技術という私にとっては新たな領域を学びながら、大学で得た知識も活かして働けそうなこれからの日々ワクワクしています。

私が入社した気象会社は、気象学をずっと専門としてきた人はもちろんのこと、その他文理問わず様々な分野から集まった職員が自身の良さを日々発揮しながら成り立っていますので、現在のフィールドにとらわれず、興味がある方は是非応募してみてください。

最後になりますが、この文章が何かの役に立てましたら幸いです。皆さんの学生生活が充実したものになるよう心から応援しています。

(2022年7月)